

食の町さきて 体にやさしい
糰を知ろう 糰を食べよう
糰を楽しもう

かい わい 京町界隈 町あるきマップ

企画発行：佐伯盛上隊

※市外局番は 0972 です。

※ → 一方通行

驚きの値段で美味しいラーメンが
食べられます。おばちゃん笑顔と、
昔から変わらないラーメン。
味噌ラーメン、チャンポンも絶品。

☎23-2637

天津

ノスタルジック、オリエンタル、
ファンタスティック。
佐伯の居酒屋と言えばココ。
お昼から夜まで営業。
佐伯名物はほぼ味わえる。

西田病院

☎22-1337
佐伯二十八萬石

糰、塩糰、味噌をはじめ、
テレビなどにも多数出演の
こうし屋ウーマンが押し。

☎22-0070

山城家
割烹

明治25年の創業当時は、割烹として
賑わいをみせていた味わい深い
たたずまいの旅籠。タイムスリップ
したようなゆったりとした時の流れを
感じられる。

玄米と無農薬・無化学肥料の野菜を
食べる事ができる。塩糰で素材の旨みを
生かしたお料理は素朴で体に優しい。
歴史の感じられるお皿にも注目。

(宝来家・茶蔵共に) ☎22-0120

糰の香りのする
おいしい
甘酒饅頭が
おすすめ!

☎22-2230

旅館宝来家
茶蔵家

糰屋本店
菓子司
たけばやし

☎23-5716

ホットサンドが絶品!

☎23-5716

どさん娘
ラーメン
みやあき薬局

☎23-5716

純喫茶ジュン

☎23-5716

あなみ
万十

☎23-2828

ベニヤ

☎23-2828

勉強堂
印刷

☎22-5516

肉の
野村屋

☎22-5201

喫茶 BAL

☎22-5201

大日寺

☎22-0420

フタカ薬局

☎22-0420

佐藤帽子店

☎22-0420

佐野金物店

☎22-0420

天草

☎23-0429

餅屋本店

☎22-0814

イタリア・ナポリからわざわざ
石釜を取り寄せるほどのこだわりよう。
料理だけでなく音楽も豊富。
みたらし… ☎22-0836
神戸で修業を積んだ店主が作るパンを
ご賞味あれ!

餅屋本店

☎22-3824

大分信用金庫
新屋敷支店

☎22-3824

夢菓子
なつかしや

☎22-1048

マルシヨク

☎22-1048

佐伯
セントラルホテル

☎22-8044

レストラン
花桐

☎22-2411

喰いまくり会館
グリコ

☎22-2411

寿司がうまい!!!

☎22-5252

第三金波

☎22-5252

南国ラーメン

☎23-7059

うまいもん通り

☎23-7059

強烈な豚骨臭。一度食べたら
やみつきになるかも。こども
ちゃんぽんが美味しい!

☎23-7059

潮谷寺

☎22-3824

大分バス
観光協会

☎22-3824

無料
駐車場

☎22-3824

イズミヤ

☎22-3824

ニシジマ

☎22-3824

笹屋本店

☎22-3824

海産物からお菓子、ジュースまで
お客様のリクエストに最大限
応えようとする姿勢には脱帽。
干物などのお土産はこちらどうぞ。

☎22-3824

吉田
タバコ

☎22-3824

関東でいう今川焼きが
食べられる。
あなたは白あん派?
黒あん派?
ちなみに私は黒あん派。

☎23-2828

菊姫伝説が有名な
真言宗の由緒ある
お寺。
詳細は裏面を!

☎22-0420

チャンポン、ごまだし定食、
佐伯の郷土料理を味わえる店。

☎23-0429

至佐伯駅

☎23-3020

魚彩さくら亭

☎23-3020

養賢寺へ

☎23-3020

佐伯の食材を糰で料理した“糰膳”
などもあり落ち着いた庭園風景を
楽しみながらいただける。

☎23-3020

ポスト

☎23-3020

城山

☎23-3020

武家屋敷通り

☎23-3020

佐伯文化会館

☎23-3020

やくら門

☎23-3020

佐伯小学校

☎23-3020

大分銀行佐伯支店

☎23-3020

第一時計店

☎23-3020

歴史と文学の道

☎23-3020

三余館

☎23-3020

ヤノメガネ

☎23-3020

仲町商店街

☎23-3020

新町通り

☎23-3020

うまいもん通り

☎23-3020

幹線道路

☎23-3020

京町

☎23-3020

菊 姫 物 語

佐伯春まつりの前夜祭として菊姫行列が行われます

今からおよそ二百年前、佐伯藩のある侍の家に、十八になる菊姫という娘がいたそうじゃ。町中を歩いていく菊姫を見かけると、若侍たちは、

「あれが、噂に聞く菊姫か。美しいのう。」

「ああいう姫を嫁にしたいものじゃ」

と、誰もが嫁に欲しがるほどの、美しい娘であった。父も母も、そんな菊姫によい婿が早く見つければよいが、と願っていた。

ところがどうしたことか、ある時、菊姫の美しい顔に、吹き出物が出はじめた。はじめは一つだけだったが、だんだんと黒く広がっていった。やがて、右のほほは吹き出物でいっぱいになり、見るもいたましい顔になってしまった。

菊姫は悲しみのあまり、部屋に閉じこもったきり、外に出ようとはしなくなってしまった。父も母も、菊姫の美しさを取り戻そうと、あちこちの医者をつねてまわったが、さっぱり効き目はなかった。そのうち、菊姫はだんだんやせおとろえていった。

そんな日が続いたのち、菊姫の部屋から、お経を読む声が聞こえてくるようになった。

ある朝のこと、一心にお経をあげている菊姫の目の前を、一筋の光がさっと横ぎったかと思うと、重々しい声がひびいた。

「お前の病気は大日寺の弁財天にお祈りすれば治るであろう。」

菊姫はすがるような思いで、このお告げを信じた。早速、大日寺に行くと、竹やぶに囲まれた境内は、人気もなく静まりかえっていた。本堂の裏の弁財天を奉つてあるお堂に入ると、菊姫は一心に祈り始めた。

「弁財天様、わたくしを哀れとおぼしめして、どうか元通りの顔にしてくださいませ。」

この日から菊姫は、二十一日間の願かけに入った。雨の日も風の日も一心に祈り続けた。

やがて、二十一日目の日がやって来た。菊姫は、朝からお告げに望みをかけて祈り続けた。昼が過ぎ、夜になった。

うしみつどき(午前二時頃)になろうかという頃、一本のろうそくだけの薄暗いお堂に、目もくらむような強い光がきらめいた。と思うと、弁財天の後ろから、らんらんと目を輝かした大蛇が、真っ赤な炎を吐きながら、菊姫に踊りかかってきた。

「ああ、弁財天様、お助けください。」

逃げる間もなく、菊姫はその場に気絶してしまった。

次の朝、お堂の中に倒れている菊姫を、家来達が見つけた。不思議な事に菊姫の顔からは、あの醜い吹き出物が、跡形も無く消えていた。家来達は、大声で菊姫を揺り起こした。

「姫様、あなたは、元の美しいお顔におなりですぞ。」

この話が城中に伝わり、町中に広がると、弁財天のご利益にあざかりたいと願う人のお参りが多くなり、弁財天のお祭りとなって、昭和の初めごろまで続いていたそうである。

現在、このお話を地域のまちおこしにつなげようと、地元の人々と、ボランティア団体の方々が実行委員会をつくり、佐伯の春祭りの「竹灯物語」で佐伯藩弁財天様参り「菊姫行列」が行われています。

久保 彰 三



東光山 大日寺(高野山真言宗) 本尊 大日如来
九州八十八ヶ所 第三十番霊場

慶長13年(1608)讃州塩飽より来た秀乗律師(毛利高政の知友)が開基した寺で、彼の遺臣が土着して船頭町の商家となり、塩飽屋、潮屋、阿波屋、讃岐屋などを名乗ったという。

また、江戸期には藩命によって疫病退散や雨乞い日乞いの祈祷・護摩焚き修法を行っていた。本堂・護摩堂・山門は江戸後期の建築。境内には、菊姫伝説の残る弁財天をまつる。

昭和5年当時、航空母艦赤城の艦長であった山本五十六が、佐伯に上陸の際参詣している。